



県内初 市内10カ所にストーマ用装具

オストメイト(人工肛門・人工ぼうこう保有者)が日常生活を送るためには、腹部につくられた排せつ口(ストーマ)用の装具を片時も手放すことができない。約600人ものオストメイトが住むという神奈川県横須賀市は今月から、地震など大規模災害の発生時に備え、ストーマ用装具を市内10カ所で保管する県内初の取り組みをスタートさせた。

神奈川・横須賀市

所。各施設の倉庫にはクリアケースが用意され、オストメイトは自分が使用する装具をバッグに入れてクリアケースに預ける仕組み。

ケースには装具が約20人分保管できるが、スペースが足りなくなった場合はその都度、市がケースを増設する。また、長期間保管すると装具

「非常時に装具がないことが一番不安だったので、これで安心」と喜びを語るのは市内在住のオストメイト。ストーマ用装具は「オストメイトにとって食べ物よりも大事な

もの」(社団法人・日本オストミー協会神奈川支部事務局・須田紗代子さん)だ。しかし、装具は消耗品で、その形状には個人差があるため、災害時に自宅に保管された装具

が持ち出せなかった場合の対応が課題となっていた。

今回、保管場所となるのは市内全9カ所の行政センターと、市総合福祉会館内

にある点字図書館の計10カ

浦賀行政センターでストーマ用装具の保管状況を確認する党市議団

(左側)

「一番の不安」を解消

が傷む可能性があるため、利用者には半年に一度、市から交換を促す通知が送付される。須田さんは「災害時、オストメイトも装具さえあれば、支援者になれる」と、装具を保管する取り組みが全国に広がることを期待している。

公明党横須賀市議団(板橋衛団長)は2002年以

来、毎年の予算要望でオストメイト対応設備の整備を求めていた。今年7月には日本オストミー協会神奈川支部の要請を受けた党市議団が、各行政センターに対しストーマ用装具の保管を要望。全市的な装具保管の取り組みにつながった。

オストメイト

災害時の備え万全に



「を」と訴えた。